

知多半島の砂との出会いから「株式会社トウチュウ」

日本福祉大学経済学部 准教授 加茂 浩 靖

美浜町に本社を置く株式会社トウチュウは、鋳物用砂販売、鋳造品加工を経営する企業である。トウチュウと知多半島の関わりは鋳物に使う原料にある。創業者森田美喬氏が所有する美浜町富士須賀の山で、鋳物に適した砂が1932年に見つかったことから会社が始まっている。この砂は、主として木曾川から流入する砂が伊勢湾の潮流で磨かれて粒度が揃ったもので、北西の強風で吹き上げられて知多半島に堆積する。森田氏はこの砂を野間砂と名づけ、名古屋、さらには東京の鋳物工場を訪ね歩き、日本車輛の恒松主任、日本鋳物協会の諏訪専務理事との劇的な出会いをきっかけに、鋳物砂の販売に成功した。

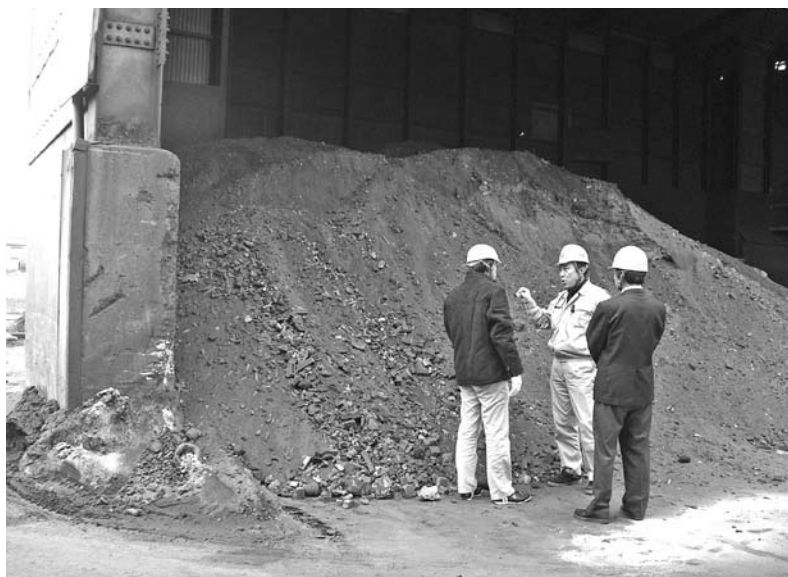
しかし、戦後復興のなかで砂資源が不足し始め、トウチュウは野間砂の枯渇を見通して、原料産地を島根県やオーストラリア、インドネシアへとシフトした。このため、当社における原料調達地域は、今や知多半島ではなくなっている。

1970年代以降、原料調達という点で当社と知

多半島の結びつきは小さくなったが、知多半島の経済・社会という点においての結びつきは今でも大きいといえる。森田氏は美浜町議会議員を20年務め、愛知用水や知多半島道路、名鉄知多新線の開通、観光地の整備に力を注いだ。現在約300人の従業員の多くを半島内から雇用し、また女子プロゴルフトーナメントの開催、地元和太鼓クラブとの交流などを通じて地域社会の発展に寄与している。

トウチュウの原点は野間砂であり、野間砂が発見されたのは知多半島の富士須賀である。この富士須賀という地名は、当社がチャーターする砂運搬船の名前につけられ、現在太平洋を航行している。

謝辞 本稿の執筆にあたり、株式会社トウチュウの大友 仁氏にインタビューにご協力いただいた。ここに記してお礼申し上げます。



鋳物砂の再利用について説明を受ける（2008年12月22日）

